

●これまでに問い合わせがあった症例

＊問い合わせがあった症例のみで、全ての症例を網羅していませんのでご注意ください。

◆対象外◆

IVR

気管支鏡下の生検

チューブ、カテーテルの交換

造影検査(血管造影、リザーバーからの造影、(すでに留置されているドレナージチューブからの)再造影、門脈造影)

IVR手技を伴わないリザーバー抜去

ミエログラフィー(画像誘導下に穿刺が行われていない場合)

内視鏡的静脈瘤硬化療法(Endoscopic injection sclerotherapy:EIS)

動注ポートからの造影や薬剤注入は認められません。

CVIT

肝動脈造影

カテーテルアブレーション

ペースメーカー

心嚢液ドレナージ(CVITより対象外)

フォローアップCAGの際のIVUS・OCT・FFR(CVITより対象外)

一時ペーシング

スワンガイツ(Swan-Ganz)

IABP

血管内血栓除去術

心嚢ドレナージ

FDLカテーテル挿入

心筋生検

CAGのみ

他のFFRやスパズム誘発試験

●対象●

IVR

穿刺を伴う造影(PTCやcyst造影など)

IVCフィルター留置術、抜去(画像誘導下)

下大静脈フィルタ挿入術

DVTに対しての下肢静脈血栓溶解術

肺静脈血栓塞栓症に対するカテーテル溶解術(PCPS下)

肺静脈血栓塞栓症に対するカテーテル溶解術

EVT(下肢)

EVT(腎)

EVT(頸動脈)

EVT(上腕動脈)

EVT(鎖骨下動脈)

CV(中心静脈)ポート留置術

腰椎ヘルニア・狭窄症などの神経ブロック

CT下経皮的肺生検

閉塞性動脈硬化症のPTA

脳動脈瘤のコイル塞栓術

帯状疱疹への神経根ブロック

脊椎刺激電極埋め込み術

大動脈瘤に対するステント挿入術(EVAR, TEVAR)

脳動脈瘤以外のコイル塞栓術

保険適応外のコイル塞栓術

脳血管内治療(血栓回収術) ステントリトリーバー

脳血管内治療(血栓回収術) ペナンプラシシステム

脳血管内治療(血栓回収術) Merciリトリーバー

PICC 超音波ガイドの穿刺や透視併用であれば対象となる。

鎖骨下静脈や内頸静脈からの中心静脈カテーテル挿入も同様

画像を利用せずに挿入する場合はIVR手技に入れることはできない

脳梗塞の血栓吸引術

内脛動脈狭窄のCAS

椎骨動脈狭窄のVAS

脳腫瘍栄養血管の塞栓術

脳動脈瘤破裂のコイル塞栓術

HCC TACE

PTCD. PTGBD. PTGBA

ASO、PAD、ALI、CLIそれぞれに対するPTA、EVT(ステント留置、POBA、クロスサー)

下大静脈フィルター留置

カテでの肺塞栓の血栓溶解

●対象●

IVR

PTCD施行後外瘻化状態における胆管ステント挿入

CTガイド下ドレナージ

CTガイド下生検

胸腔ドレナージ(透視下)

下肢静脈瘤血管内焼灼術

硬化療法

副腎サンプリング

ミエログラフィー(画像誘導下に穿刺が行われている場合)

リンパ管造影(造影だけで治療効果がある)

門脈造影(画像下直接穿刺であれば、経皮経肝胆管造影(PTC)と同じ扱い)

エコー下肺生検は認められます。透視併用の有無は問いません。

PICC挿入は穿刺にエコーを用いたり、血管内にカテーテルを進める際に透視を併用していれば認められます。

CTガイド下の術前マーキング

外傷や術後出血に対する止血術(コイル使用、不使用)

腎凍結療法術前の腎動脈塞栓術(リピオドール+エタノール使用)

V-Vシャントコイル塞栓術

エコーガイド下ドレナージ(穿刺時にエコーを使用し、ワイヤー使用から透視下で手技を継続する症例)

VATSマーカークラッピング

肺腫瘍に対してのBAI

婦人科がんに対しての動注療法

脳血管攣縮に対する動注療法

乳腺エコー下でのCNBやマンモトーム

CVIT

CAS

EVT

POBA

シャントPTA

AMI. UAP PCI(STENT.POBA)(POBAのみ)

PCI後、STENT内再狭窄症例のPCI(STENT.POBA)(POBAのみ)

*アンブラッツァー

*PTMC

*PTSMA

AMI. UAP PCI(STENT.POBA)(POBAのみ)

PCI後、STENT内再狭窄症例のPCI(STENT.POBA)(POBAのみ)

ISR に対するPCI

TAVI

先天性疾患のMAPCAコイル塞栓術

アンブラッツァー→動脈管に対しプラグ使用・コイル塞栓術も対象

CTEPHに対するBPA

●診断名と手技名の組み合わせ●

PCI—ACS、OMI、AP(労作性狭心症(EAP)と不安定狭心症(UAP))、AMI、PAD、その他(その他の場合は詳細な疾患名を記載するように指示)

「PAD」「CLI」「ASO」「STENT閉塞」は疾患名として適切である

診断名と手技名の整合性がとれるように十分注意して記載すること

AP(病名)–PCI(手技の種類)は、記載方法として問題ない